



孫家見書志

三編

抄本

へ遠13  
2475  
66



遠13  
補2475  
巻26

藤倉見守志下南中一

一筑前守尉河津の守

并和国守女之守兵部守

一美作守西守門守守

并古河守忠志守兵部守



謙合君見可志下編中カニ

筑前守安府治世の事

并和因並女之系其出る事

乞法小端沙八宮らるの事

作とりり和因並女之系其出る事

けんと部沙田名といふ事

西路とていふ由らる事



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a circular stamp at the top.

客らうのりとうふらんやしの心成る  
將の由度うも道長と講を  
はらのうも言うなび一様と  
いふも言ふてうも斗略と  
んーりらう・浦津村・宗政と  
はらぬ枝の伸くことと  
しま一様とらうなびと  
うまたたけらうのいふこと

ようや一讀目一読のぬ枝から  
くーもいふらぬびの汁と  
のぬるもいふらぬと  
有るまうくもいふらぬと  
目の夜忽もいふらぬと  
よもいふらぬの味と  
りらうもいふらぬと  
てんもいふらぬと

新井村が愛をこめてお返しに  
色もくもくとしたまはれ  
のまはれ天下のあつらひの  
くぬぎ採りしとちとまはれ  
ついでにまはれにまはれ  
まはれしとちとまはれ  
しつらぬまはれしとちとまはれ  
ひとまはれしとちとまはれ

時をよめりしとちとまはれ  
ら次節のまはれしとちとまはれ  
らひとまはれしとちとまはれ  
歌よのまはれしとちとまはれ  
らひとまはれしとちとまはれ  
らひとまはれしとちとまはれ  
らひとまはれしとちとまはれ  
らひとまはれしとちとまはれ  
らひとまはれしとちとまはれ  
らひとまはれしとちとまはれ





せしり廻りてはたからるる  
ハシラ 用之のこらんは  
るし中か海國の島は池  
系ありてはたからるる  
（新田又新のこらんは余  
のこらんはたからるる）  
海を又か防戦の用は  
是ハ海國の浦海村が海は

之田のこらんはたからるる  
りしりてはたからるる  
家ありてはたからるる  
りしりてはたからるる  
海を又か防戦の用は  
是ハ海國の浦海村が海は



中り新し君とてしりて居る  
身中音所をりしも音所を  
入法有るを弟ひとまけけらま  
ゆるし音所を物権と  
弟未結成る人送心あるさる  
と知る者おまかと結成し  
てまらし音所をりしも  
こころをりし音所をりし  
おまかと

実しりし音所をりしも  
のゆゑに音所をりしも  
神身より先母の音所をりしも  
性ある音所をりしも  
んよの音所をりしも  
母くし音所をりしも  
おん音所をりしも  
り音所をりしも

美付君の由例故も次々  
も清中より句々し印御さる  
よのうおまをきよきつひのみ  
尼公由産例二方と清の國を  
流し糸もおまの清に例よ寄  
あひらる美付えよりおまの由  
例故もさる材例をよ  
おまの由例の由え清と例

清例よ清く初くしよ一  
けおおまの由例も出せも  
美付しよまより居るのよ美如  
例忠如例一少條を例と例  
例朝よ乃由のよとく一美下乃  
武將よよまよ美付おまの由  
例さるのよしよあ相例の例  
あ例よ例死らるよお



中と一節よりありある大母の  
かへ朝比奈の常義あり一人  
とよまへり心角よりとよまへり  
とよまへり古屋直給と努と合  
としらやまへり海村よまへりま  
討えり中とよまへりこの努  
府中よまへりおまへり定と東の  
道より法を記せりよまへりあへり

一節よりありある大母の  
かへ朝比奈の常義あり一人  
とよまへり心角よりとよまへり  
とよまへり古屋直給と努と合  
としらやまへり海村よまへりま  
討えり中とよまへりこの努  
府中よまへりおまへり定と東の  
道より法を記せりよまへりあへり



随ふらん 大なる波市 常集  
波市之市 常集 大なる市 常集  
政きし 余人 越谷 之子 余人 三  
侍りて 先陣あり 侍りて 先陣あり  
和内 波市 尉 波市 常集 同新 波市 尉  
常集 同新 波市 尉 常集 入 道  
同新 波市 尉 波市 常集 同新 波市 尉  
常集 同新 波市 尉 常集 同新 波市 尉

去肥 先波市 尉 波市 常集  
刑部 波市 尉 常集 同新 波市 尉  
之市 常集 同新 波市 尉 常集 同新  
始りて 波市 尉 常集 同新 波市 尉  
余人 波市 尉 常集 同新 波市 尉  
惣勢 波市 尉 常集 同新 波市 尉  
波市 尉 常集 同新 波市 尉  
波市 尉 常集 同新 波市 尉



て是の所のまゝにふるまはるゝ  
今もこのまゝにふるまはるゝ  
ら次はまゝにふるまはるゝ  
乃今迄まゝにふるまはるゝ  
さよらあつてふるまはるゝ  
中野村のまゝにふるまはるゝ  
又もふるまはるゝ  
り西の波のまゝにふるまはるゝ

中野村のまゝにふるまはるゝ  
又もふるまはるゝ  
乃今迄まゝにふるまはるゝ  
さよらあつてふるまはるゝ  
中野村のまゝにふるまはるゝ  
又もふるまはるゝ  
乃今迄まゝにふるまはるゝ  
さよらあつてふるまはるゝ







物より私に入るるもの母の心  
切らまらる坊を捨ちればかき置  
まていゝかいたるひは神代は  
なとちかゝるものあつらひに  
と悲歌の中へあつらひに  
時を人かゝるものあつらひに  
切切はあつらひにあつらひに  
と道にあつらひにあつらひに

討つらるるものあつらひに  
詮道にあつらひにあつらひに  
あつらひにあつらひに  
さうあつらひにあつらひに  
御座るものあつらひに  
とあつらひにあつらひに  
あつらひにあつらひに  
りて討捨るものあつらひに





しんきと教も出帝時自分か  
口とえく〜ちの〜せら  
る〜時身も〜色  
と〜せん〜防  
さ〜保忠の〜の  
〜の〜の  
〜と〜と〜と  
〜の〜の〜の  
〜の〜の〜の

つける礼と〜と  
〜の〜の〜の  
大座小座帝〜帝  
帝〜帝  
〜帝  
〜帝  
〜帝  
〜帝



安奴の勇力とて都に上りて  
極大の中とて池向の母の極  
さるものなりとていふはさる  
ものなりとていふはさる  
のまゝとていふはさる  
切りかゝりたるはさる  
今安奴の母の池向の母の

人よりせんは金銭と始りて思  
ひ居るなりとていふはさる  
すゝめたるはさる  
りけりんとていふはさる  
ぐゝは波多の池向の母の極  
はさるなりとていふはさる  
てのけりなりとていふはさる  
はさるなりとていふはさる



入まじし浦(うら)の波(なみ)もさしきりて  
す町(まち)にけり引(ひ)寄せく勝(かち)はなす  
波(なみ)多(おほ)やうの浦(うら)味(あじ)さしと下(くだ)知(し)  
らる(らる)かたけりけり河(か)波(なみ)の島(しま)の母(はは)なり  
大(おほ)將(しょう)士(し)居(い)る清(せい)先(せん)智(ち)の乱(らん)し  
る(る)とん(とん)き(き)人(ひと)な(な)い(い)り(り)河(か)の(の)島(しま)に  
神(かみ)守(まも)り(り)と(と)さ(さ)る(る)こと(こと)は(は)ま(ま)る(る)も(も)ち(ち)居(い)  
人(ひと)る(る)子(こ)女(め)も(も)ま(ま)り(り)と(と)知(し)る(る)こと(こと)は(は)ま(ま)る(る)も(も)ち(ち)居(い)

の(の)小(こ)糸(いと)子(こ)糸(いと)を(を)る(る)か(か)た(た)に(に)一(ひと)く(く)波(なみ)  
殺(ころ)す(す)は(は)代(しろ)なる(なる)見(み)え(え)り(り)も(も)せ(せ)ん(ん)こと(こと)る(る)  
を(を)お(お)ご(ご)ら(ら)も(も)は(は)ら(ら)ん(ん)か(か)た(た)に(に)一(ひと)く(く)波(なみ)  
引(ひ)寄せ(よ)せ(せ)し(し)ま(ま)る(る)波(なみ)多(おほ)やう(やう)の(の)  
浦(うら)が(が)勢(せい)力(りき)合(あ)は(は)れ(れ)る(る)も(も)ち(ち)居(い)る(る)か(か)た(た)に(に)  
右(みぎ)子(こ)切(き)り(り)の(の)勢(せい)力(りき)合(あ)は(は)れ(れ)る(る)も(も)ち(ち)居(い)る(る)か(か)た(た)に(に)  
下(くだ)に(に)切(き)り(り)の(の)勢(せい)力(りき)合(あ)は(は)れ(れ)る(る)も(も)ち(ち)居(い)る(る)か(か)た(た)に(に)  
多(おほ)く(く)も(も)ち(ち)居(い)る(る)か(か)た(た)に(に)一(ひと)く(く)波(なみ)

うさへて歌きよくわりのめも  
 のるまはらぶ浦波のやうなまは  
 ともがそがれがらまはと南に  
 残るるとんとはるものの中ひ  
 らまはて海らるるまは清物なる  
 いりるとぬらまははらまはら  
 け波り十かまは歌の清と実く  
 けしとまははらまはらまはら

中野勢をよとるて雨かき  
 海はらのぬらまはらまはら  
 の清まらまはらまはらまはら  
 年と放まはらまはらまはら  
 らまはらまはらまはらまはら  
 波多の忠総をいりまはら  
 らの太力おらまはらまはら  
 さんまはらまはらまはら

るべしとせむとあはれなりと  
馬と引く一特にもあはれ  
為君乃為遠域と海をん  
まろの女々涕家四景け  
の子孫中と物と君家の血  
胸と清みあはれ先程の忠  
とれ君の忠款小澤とあ  
種がさあはれとあはれ

糸のまをそや天珠とま  
良そと道と山と波とせん  
るしとと向は澤とる大方  
ふり切るるる志強け酒と  
心よと心と勇毎るあはれ  
あはれと清人の心あはれ  
はれと二打とあはれ  
刀ととととととととと

てんごのりやゆそ忠隠が嫡子治  
部<sup>う</sup> 建政<sup>けんせい</sup>の家<sup>の</sup>の子<sup>こ</sup> 部<sup>う</sup> 未<sup>み</sup> 未<sup>み</sup> 未<sup>み</sup>  
父<sup>ちち</sup>と教<sup>しやう</sup>とんと横<sup>よこ</sup>合<sup>がひ</sup>をうりつせ  
うとて部<sup>う</sup>が部<sup>う</sup>未<sup>み</sup>是<sup>こ</sup>とらんとて同<sup>どう</sup>く  
大<sup>おほ</sup>勢<sup>せい</sup>をせまふり防<sup>ぼう</sup>ま<sup>ま</sup>跡<sup>あと</sup>ひく  
双<sup>ふた</sup>の身<sup>み</sup>い入<sup>い</sup>乱<sup>らん</sup>し<sup>し</sup>平<sup>へい</sup>清<sup>せい</sup>忠<sup>ちゆう</sup>隠<sup>いん</sup>  
中<sup>ちゆう</sup>へと<sup>と</sup>平<sup>へい</sup>清<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>物<sup>もの</sup>別<sup>べつ</sup>す<sup>す</sup>と<sup>と</sup>お  
り物<sup>もの</sup>く<sup>く</sup>乱<sup>らん</sup>軍<sup>ぐん</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>り

徳倉見<sup>とくくらみ</sup>志<sup>し</sup>中<sup>ちゆう</sup>一<sup>いつ</sup>終<sup>しゆう</sup>

